

2022 年度 共通テスト倫理 第 1 問 7〔問題編〕

前回に引き続き、2004 年から 2025 年に実施されたセンター試験・共通テストの問題を分析し、その中で頻出の人物に関する問題を紹介していきます。今回は過去 22 年間で 16 回出題された「ブッダ」についての問題を紹介します。まずは 2022 年度の問題です。

第 1 問 高校生 A と B が交わした次の会話を読み、後の問い(問 1 ～ 8)に答えよ。

問 7 A は、『スッタニパータ』の一説である次の資料を B に示し、後の発言をした。A の発言中の a ・ b に入る記述の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 7

資料

ある者たちは……他の教えに善は無いと説く。自分が依拠する考えが善であることを説きながら、それぞれ別々の真理に固執している。……論争が修行者たちの間に起きると、勝利の驕りと敗北の落胆がある。人はこれを見て論争をやめるべきである。称赞の獲得以外に何にもならないからである。……称赞されると、……喜び、心高ぶる。心の高ぶりによって、彼が害されることになる。

A : 資料を見てよ！ブッダは、a って言ってるよ。倫理の授業でブッダは b って習ったよね。資料はそれと関係してるのかな。

- ① a 論争は称赞を得ること以外には何の役にも立たず、称赞は心の高ぶりを生み出すことで人を害するため、人は論争すべきでない
b 自己への執着が苦しみの原因であると主張した
- ② a 論争の勝者には驕りが生じ、論争の敗者は失意に陥ることになるため、論争は勝者のためにも、敗者のためにもならない
b 身体を苦しめる修行によって真の自己を見いだせると主張した
- ③ a 論争は自らが真理であると思う事柄を批判的に吟味するためには有益であるが、勝敗に一喜一憂することは避けなければならない
b 自己への執着が苦しみの原因であると主張した
- ④ a 論争においては、自らが真理であると思う事柄を守るために、相手からの厳しい批判を受けるが、その苦しみに耐え続けなければならない
b 身体を苦しめる修行によって真の自己を見いだせると主張した

2022 年度 共通テスト倫理 第 1 問 7 [解答解説編]

【解答】

正解：①

【解説】

この問題は、資料の読み取りとブッダに関する知識を組み合わせる問題です。まずは a に入る記述を資料から読み取っていきます。読み取り問題を解く際には、選択肢を見て資料でどの部分に注目すればよいかを、最初に確認しましょう。それぞれの選択肢には「論争」という言葉があり、「論争に対する是非」についてそれぞれ違いがあります。①「人は論争すべきでない」、②「論争は勝者のためにも、敗者のためにもならない」、③「論争は自らが真理であると思う事柄を批判的に吟味するためには有益である」、④については「論争に対する是非」が述べられていません。「論争に対する是非」とそれぞれの選択肢の違いを意識して資料を読み取ると、「人はこれを見て論争をやめるべきである」の一文で、ブッダが論争をすべきでないと言っていることがわかります。論争に対する是非ははっきりしましたので、「論争は有益である」と述べている③や、是非を述べていない④は、不適切と判断できます。①と②はそれ以外の記述についても、資料と矛盾する箇所がないため、b に入る記述で判断します。b に入る記述はブッダに関する知識が問われています。②の「身体を苦しめる修行」は苦行といい、ブッダは悟りに至る方法ではないと否定しました。一方で、①の「自己への執着が苦しみの原因である」という記述はブッダが説いた我執の内容と合致するため、正解は①となります。

※読み取り問題を解く際には、先に選択肢を見て「何を読み取ればよいのか」を判断してから資料などの読み取りをおこないましょう。

引き続き、「ブッダ」に関する問題を紹介します。続いては、2023 年度の問題です。

第 1 問 高校生 A と B が登校中に交わした次の会話を読み、後の問い(問 1 ～ 8)に答えよ。

問 5 下線部㊸に関連して、A と B は次の**資料 1 ・ 資料 2**を図書館で見つけた。後の**ア ・ イ**はブッダとパウロの思想についての説明、**ウ ・ エ**は**資料**の内容についての説明である。**ア ～ エ**から適当なものを全て選んだ時、その組合せとして正しいものを、後の①～⑨のうちから一つ選べ。 5

資料 1 ブッダの言葉を収めた『スッタニパータ』より

いかなる生き物であっても、怯えているものも動じないものも、悉く、……既に生まれたものも、これから生まれようとするものも、全ての生き物は、幸せであれ。

資料 2 新約聖書「ガラテヤの信徒への手紙」(パウロ)より

あなたがたは皆、真実によって、キリスト・イエスにあって神の子なのです。……ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです。

ア ブッダは、この世のあらゆる生き物は絶えず変化してとどまることがないため、それらの生涯は苦とも楽とも断定できないと説いた。

イ パウロは、十字架上的のイエスの死を、人間の罪のためのいけにえとして解釈し、これによって人間の罪が贖われたと考えた。

ウ **資料 1**では、現在生きている生き物に対してだけでなく、未来の生き物に対しても、等しく幸せを願うことが説かれている。

エ **資料 2**では、信徒は全て神の子であるため、民族や身分、性別などを問わず、平等であることが説かれている。

① **ア**と**イ**

② **ア**と**エ**

③ **イ**と**ウ**

④ **ウ**と**エ**

⑤ **ア**と**イ**と**ウ**

⑥ **ア**と**イ**と**エ**

⑦ **ア**と**ウ**と**エ**

⑧ **イ**と**ウ**と**エ**

⑨ **ア**と**イ**と**ウ**と**エ**

2023 年度 共通テスト倫理 第 1 問 5 [解答・解説編]

【解答】

正解：⑧

【解説】

ア・イはそれぞれブッダとパウロについての正しい知識を問い、**ウ**と**エ**は**資料 1・資料 2**を正しく読み取れるかを問い、正しい組合せを選ぶという問題です。選択肢の組み合わせが多いため、ひとつずつ確認をしていきましょう。**ア**の中にある「この世のあらゆる生き物は絶えず変化してとどまることがない」とはブッダの考えである諸行無常を指しています。一方で諸行無常という真理を悟り、かつ諸法無我という自分や自分の所有物にとらわれる迷いを捨て去れば、解脱することができると説明していますので、この部分においては苦や楽について説いたものではなく、**ア**は正しいとはいえません。また、ブッダが極端な苦行や快楽を避け、中道が大切だと説明していますが、中道は真理を求める方法を示したものですから、諸行無常と結びつくものではないと考えられます。**イ**はパウロに対しての正しい記述です。パウロも過去 22 年間で 14 回出題されている頻出の人物です。パウロは、イエスの十字架上の死は、人間の根源的な罪を身代わりとなって贖った贖罪であり、神の愛への信仰によってのみ救いが得られると説きました。**ア**は正しくなく、**イ**は正しいため、③と⑧に絞られ、この時点で**ウ**は正しいとなりますが、確認してみましょう。**資料 1**中の「既に生まれたものも、これから生まれようとするものも、全ての生き物は、幸せであれ」から、**ウ**の記述は正しいと判断することができます。「これから生まれようとするもの」が「未来の生き物に対しても」という部分に合致します。**エ**についても、**資料 2**中の「あなたがたは皆、……神の子なのです」や「ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男も女もありません」という記述から正しいと判断することができ、正解は⑧となります。

※倫理で高得点を取るためには、基本的な知識をしっかりと定着させる必要があります。教科書や用語集、一問一答を繰り返し使って知識を定着させていきましょう。